

政策対話（教育委員会事務局）の概要

1 テーマ

「若者たちが考える学びの改革」

2 実施概要

(1) 日 時

令和4年6月14日（火）16時から18時

(2) 場 所（実施手法）

長野県庁（Zoomによるオンライン開催）

(3) 参加者（視聴者）

10名（中学生、高校生、大学生、専門学校生）

県側：内堀教育長、酒井教育長職務代理人、中川教育委員、今井教育次長

3 対話での意見（概要）

区 分	意 見	意見に対する県の考え方
「探究」活動を通して身につく力、「探究」のあり方の課題などについて	<ul style="list-style-type: none">・自らテーマを決め、調べ深めていく「探究」活動で、自分たちでも学校や社会に貢献できることに気づき、将来の進路や職業を考えるきっかけになった。・一人ひとりの興味関心を大事にした授業や学校活動であれば、どんな事でも楽しく突き詰められる。・「探究」に取り組む中で、自ら行動し、自ら発信する力が身に付いた。・「探究」を難しいものだと感じている生徒も多い。教員やサポーターに気軽に相談できる環境や、仲間と協力し合える授業のあり方、興味があることをもっと自由に追求できる雰囲気があればよいのではないかと。	<p>児童生徒一人ひとりの意見を大切に受け止め、すべての児童生徒が充実感を持って学べる環境を作っていくことが重要であるということに改めて認識いたしました。</p> <p>今後も様々な意見交換の機会を設け、次期教育振興基本計画の策定等に生かしてまいります。</p>

<p>教員の関わり方について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に学べるよう見守り、支えてくれる一方で、生徒だけでできないことは助けてくれる。やる気を引き出してくれる存在。 ・先生たちは研修や事務を多く抱えている。教員が「教える」ことに専念できるよう、働き方を改善してほしい。 ・行き詰まった時、先生や地域の方々が分け隔てなく相談に乗ってくれる環境であって欲しい。 	
<p>地域人材の学校への活用について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校活動をより主体的に深め、楽しむためには、先生や地域の方々のサポートが不可欠。 ・地域人材を活用することは、先生の負担軽減にもつながるのではないか。 ・むやみに地域の方を学校へ入れるのではなく、目的や役割を明確にした上で、学校運営に協力してもらうことが必要。 	